

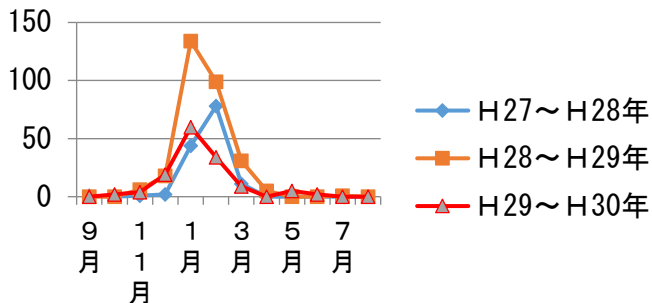


今年もインフルエンザ予防接種の時期がやってきました。毎年秋から冬にかけてインフルエンザの流行シーズンです。

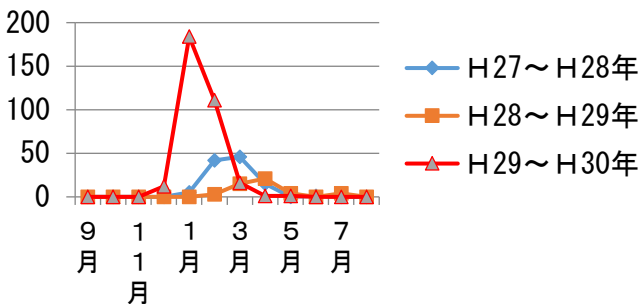
10月に入り、すでに熊本でも今季初の学級閉鎖が宇城市で発生しており、県健康危機管理課が注意を呼びかけています。今回のネットワークでは、毎年のことですが、インフルエンザ流行に備え、昨年の振り返りと予防接種の時期や効果についてお伝えします。

昨シーズンの振り返り

春日クリニックにおける
A型インフルエンザ月別比較



春日クリニックにおける
B型インフルエンザ月別比較



例年インフルエンザは11～12月に始まり、1～2月に感染のピークになることが多いのですが、昨年は、11月には流行期入りし、例年よりも早いペースで感染が拡大しました。また、例年の同時期に比べ、インフルエンザB型の広がりが早かったことも特徴でした。春日クリニックでも左の図のように、例年に比べ、インフルエンザの発生が早く、A型よりB型の発生が多くみられました。(A型128人、B型323人/H29年9月～H30年3月末まで)

昨年はワクチンの供給体制が不十分で、ワクチンを予定通り入荷できない医療機関が続出しました。今年度は、今のところ例年のワクチン使用量と照らし合わせて不足は生じないだろうと予測されています。当院ではワクチンの確保は十分できてはいますが、なるべく早めの接種をおすすめします。

インフルエンザ予防接種、効果はあるの？

インフルエンザウイルスは毎年変化しながら流行するため、毎年流行が予測されるウイルスに合った予防接種を受けておくことが必要です。

しかし、予防接種をしたからといって、インフルエンザにかからないというわけではありません。「インフルエンザにかかりにくくなる」「かかっても症状が軽くてすむ」など、重症化を予防することにつながります。特に、高齢の方や小児、慢性疾患を持つ方は、かかると重症化する可能性が高いため、予防接種を受けておいた方がよいといわれています。



インフルエンザ予防4つのポイント

- ① 手洗いうがいをすること。
- ② 日頃から十分な栄養や睡眠をとる。
- ③ 流行期間中は、人混みに入る際にマスクの着用をする。
- ④ 予防接種をする。



インフルエンザ予防接種はいつ打てばいいの？効果と持続期間について

- インフルエンザのワクチンは効果が現れるまでに、接種後約2週間を必要とします。
- 昨年の特徴も踏まえ、遅くとも11月末までの接種が望ましいでしょう。
- 効果が持続する期間は約5ヵ月程度といわれています。

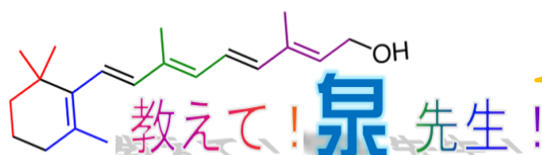
* 予防接種の後、まれにショックや蕁麻疹などの副作用があらわれることがあります。体調の良い日に接種しましょう。

初めて予防接種を受けられる方は、副作用が起きないか観察が必要なため接種後30分は病院内で待機していただく規則となっています。



毎年訪れるインフルエンザの流行期。感染を広げないためには、手洗い・うがい、マスクの着用（咳エチケット）、人ごみへの外出を控えるなど、一人一人が「かからない」「うつさない」対策を実践しましょう。また、お薬で症状は回復してきますが、感染力は強く、周囲にうつす恐れもあるため、決められた期間は自宅で安静にして過ごしましょう。

10月からインフルエンザの予防接種を開始しました。流行する前の早めの接種をおすすめします。（ 外来診療部 🍀 成松 真弓 ）



インフルエンザワクチンについて

インフルエンザワクチンの接種の時期になりました。調剤課から注意してほしい点をご紹介します。

質問 1) インフルエンザワクチン接種後に気をつけることは？

サポート隊の記事にもありますが、接種直後に、アレルギー反応が出ることがあります。通常接種後30分以内におこることが多いので、初めて接種される方には、30分間は院内で待機していただいています。

接種当日は激しい運動は避けて、接種部位を清潔に保ってください。接種後は健康状態に気をつけて、接種部位の異常な反応や体調の変化、高熱、けいれんなどの異常があった場合は、すみやかに医師の診察を受けてください。



質問 2) ワクチンの接種を受けることができないのは、どんな状態の人ですか？



- ・明らかに発熱している人（通常 37.5℃以上）
- ・過去にインフルエンザワクチンに含まれている成分でアナフィラキシーをおこしたことがある人
- ・重篤な急性疾患にかかっている人
- ・上記以外に医師が予防接種を行うことが不適当な状態にあると判断した人

以上、不明な点がありましたらご相談ください。